第四十七回「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪　　「東海道の歴史を探る追加」 参加21名

作成平成２１年６月古民家歴史部会員　原本

「Ｉ」東海道品川宿平成 22 年４月１日（木）　「集合；京急品川駅高輪口改札前」１０時厳守　同刻出発します。

行　程；京急品川駅→品川駅操業記念碑→問答河岸・土蔵相模→品川宿松→法善寺→本陣跡→品川神社→大山墓地・東海寺・細川家墓地→荏原神社→品川橋→品川寺→海運寺→青物横丁駅。

昼食場所；青物横丁駅前

１・品川宿の概要　出発9:50

地名の由来は目黒川（江戸時代は大きく左に曲がっていた・宿場東側・洲、猟師町、漁師町）の古名を品川と言った事からと言われる。品川宿は宿駅伝馬制度が出来た（慶長６、１６０１）最初に付加され成立した。東京湾に面し、中世以来早くから六浦（金沢）と共に、物資の集散地として陸海交通の要衝として栄えてきた。日本橋から最初の宿で、２里、川崎へ２里１８町（９．８ｋ）の位置にある。宿内の町並は１９町４０間（２．１ｋ）で、歩行（かち）新宿・北品川・南品川の３町で構成され、規模は江戸後期で人口６８９０人（男３２７２／女３６１８）家数１５６１軒、本陣１（北品川１３５坪）脇本陣２軒、問屋場１、旅籠９３軒（東海道宿村大概帳）。

品川宿は海の景色、新鮮な海の幸があり、宿場町としてでなく、江戸の人々の行楽地として江戸初期から賑わった。桜・潮干狩・紅葉。又、寺・武家屋敷が近いという場所柄北の吉原に対し南国品川と称され多くの飯盛女（宿場遊女・旅籠に飯盛女置く事認められていた、５００人認定に対し１５００人とも）が賑わいを支えていた。

天保１４年（１８４３）品川宿規模；宿高９８７石０８９合・人口等上記参照。

２・品川駅操業記念碑　9:53〜56

新橋―横浜間鉄道開通が最初とされているが、実は半年前の、明治５年５月７日新橋・品川間で仮営業されていた。この碑はそれを記念したもの。

３・御殿山（品川御殿跡・太田道灌屋敷跡・桜、楓名所）　10:05〜07（八ツ山橋対岸から見る）

面積１１，５５０坪（品川町史）と言われ、江戸初期から１７０２年（元禄１５）にかけて品川御殿があった（現北品川３丁目５番地付近）。焼失後，御殿は造らなかった。品川台場築造するため御殿山から

大量の土を削り取った。土取の時、１８５４年（安政元）、板碑・五輪塔・宝筐印塔など中世の石造物と人骨が出土、法善寺で弔った。

4・問答河岸由来碑

品川の河岸で帰城する三代将軍徳川家光と沢庵和尚が次の問答をしたので、此の河岸を問答河岸と呼ぶ。家光「海に近くてもトウ海寺とは如何」と問うと、沢庵はそくざに「大軍を率いてもショウ軍というが如し」。

5・土蔵相模；上級妓楼（ｷﾞﾛｳ・遊郭）ナマコ土蔵がある相模・高杉晋作、伊藤博文など幕末志士密談。

6・品川宿の松・新宿お休み処・台場横町・黒門横町・善福寺、寄木神社（伊豆の長八こて絵）

7・御殿山下砲台（台場）跡（計画された１１ヵ所の台場の中で只一つ陸続きのもの。

8・法禅寺（浄土宗芝増上寺末・臨海山遍照寺・本尊阿弥陀如来・寺宝正観世音菩薩空海作２代将軍厄除霊像、宗祖法

然尊像自作、六字名号宗祖筆円光大師署署縁起）

言誉上人が１３８４（至徳元年）に開創。室町時代かそれ以前の制作とされる、法然上人坐像を収めた厨子（裏に元禄１５年銘葵紋入）は５代将軍綱吉の母桂昌院が帰依し寄進したもの。品川台場築造の祭、御殿山からの土取の時、人骨、板碑、五輪塔、宝筐印塔が発掘され、当寺で供養した。板碑の多くは本堂脇の内庭のお堂に納められている。天保の飢饉で品川宿にも流民が溢れ、１８３７（天保８）春から翌年春までの１年間に品川宿内で８９１名が倒れた。この寺に５００人余りを埋め埋葬し、塚の上に供養碑を置き正面左右に六地蔵を安置した。流民叢（ｿｳ）塚碑は由来を記し天保塚の上に建てられた。

9・本陣跡（聖蹟公園・街道から 9 間,16.2 m奥、建坪１３５坪・明治 19 年～昭和 11 年警視庁島川病院用地）

１８６８（明治元）明治天皇が初めて江戸城入りした時、この本陣は仮行在所（ｱﾝｻﾞｲｼｮ）となった事を記念して、聖蹟公園が造られた。

10・品川神社「ｼﾅｶﾞﾜｼﾞﾝｼﾞｬ・江戸時代は品川稲荷・牛頭ｺﾞｽﾞ天皇勧請・北の天王社、祭神天比理刀メ乃命（ｱﾏﾉﾋﾘﾄﾒﾉﾐｺﾄ）、宇賀之売命（ｳｶﾞﾉﾒﾉﾐｺﾄ）、素盞嗚尊・基本４月１５日、天王祭６月第１日曜日含金土日」

幕府は沢庵和尚を開山に招いて東海寺を建立する際、敷地内にあったこの神社を現在地に移転させた。

神殿前の石造鳥居（上野東照宮の鳥居に次いで都内２番の古さ）と水盤は、東海寺造営奉行であった佐倉藩主堀田加賀守正盛が１６４８（慶安元）に寄進したもの（鳥居に寄進銘と宝暦１２年＝１７６２の修理銘刻)。石段横の富士山をかたどった富士塚は富士講の人々が造った人工の山である。

本殿右側から背後に回ると、自由民権運動指導者板垣退助の墓がある（右退助・左同妻）「板垣死すとも自由は死せず」佐藤栄作書。

品川神社古文書神社所蔵，古いものは天正１１年（１５８３）に遡り現在に至る膨大な文書が伝来している。特に明治５年（１８７２）迄の文書４１５点は神社の由緒や境内図，神社と地域の人の関わり，幕府や明治政府との様々な応答，天王祭や太々神楽（ﾀﾞｲﾀﾞｲｶｸﾞﾗ・伊勢神宮奉納・大道神楽）のことなど，品川地域の歴史の解明や，江戸時代から明治初年の神社史を知る上でも貴重な古文書である。

石造灯籠１対（都指定建造物）；慶安元年（１６４８）に亀岡政重（石工）と後藤光利（装剣具彫刻工）が寄進，浅間神社の参道置かれている。

神輿１其；屋上に鳳凰，台上に円柱を方形に立て屋根を支え，胴の前部を唐戸，他の三面を牡丹唐草文毛彫の金銅板で覆い，三葉葵の文を四方に打ち出している。江戸時代前期制作と考えられる。

11・日本ガラス工業発祥之地・東海寺大山墓地

官営品川硝子製造所跡、１８７３（明治６）日本最初のガラス工場（興業社）が設立されたが、経営不振から１８７６（明治９）官営となった。その後、官営工場払下げ方針によって、明治１８年西村勝三らに払い下げられたがが、７年後経営不振で解散（赤煉瓦建物一部愛知県明治村に移築保存)。

東海寺大山墓地；沢庵宗彭（ｿｳﾎｳ・国史跡）石垣を巡らした中に３個の自然石を重ねただけもので、沢庵漬けの創始者・賀茂真淵（ﾏﾌﾞﾁ)、江戸中期の国学者（１６９７～１７６９・国史跡)・渋川春海（ｼｭﾝｶｲ)、(貞享歴をつくった・１６３９～１７１５)・服部南郭（ﾅﾝｶｸ)、江戸中期儒学者（１６８３～１７５９)・井上勝（鉄道）等の墓。

12・東海寺（臨済宗大徳寺派万松院・本尊釈迦如来坐像２尺余・脇侍普賢、文殊両菩薩１４世紀院吉作・寺宝16羅漢像16躯伝運慶作、仏舎利由良氏伝来、つり鐘区文)

開山沢庵和尚・開基は下総（千葉）佐倉藩主堀田正盛。１６３７（寛永１４）沢庵和尚（１５７３～１６４５）が３大将軍徳川家光から、寺領５００石、境内地４万７０００坪（約１５万５００㎡）を賜って、翌年開いた寺院。幕府の手厚い保護を受け、寛永寺・増上寺と並び称された巨刹であった。１８７

１（明治４）寺城は官営地となり、諸堂塔は取り壊され、火災にあって旧観を失ってしまった。現在の東海寺は旧塔頭玄性院跡に建てられており、境内に１６９２（元禄５）に造られた梵鐘（都指定財）がある。かつての本堂は品川小学校の所にあった。都、品川区指定財に文書、什物（ｼﾞｭｳﾓﾂ・日常器具）等多い。下総佐倉藩堀田家、丹波篠山藩主青山家の墓。

13・細川家墓地「肥後熊本５４万石外様（ﾄｻﾞﾏ）大名・３m余五輪塔８基、大名墓地の典型」

11:29～30

14・荏原神社（江戸期貴布禰社・祈雨神徳・南の天王社,は期間品川神社に同じ、海中渡御、品川拍子・カッパ祭）

品川宿鎮守南の天王様と呼ばれた。郡名を冠し明治８年荏原神社と改めた。高靈神（ﾀｶｵｶﾐﾉｶﾐ）・天照大神・須佐之男尊（牛頭天皇）を勧請。１０６２（康平５）源頼義、義家父子が前９年の役の折り、武蔵の国総社６所宮（現府中市大国魂神社）と当社に祈願し、品川海岸で身を清めた。

11:32

15・品川橋（南北宿境界、目黒川に架かる橋・漁師町・毎朝魚市・高札）

11:46～48

16・品川寺（ﾎﾝｾﾝｼﾞ・品川の観音・真言宗醍醐寺派・海照山普門院・本尊水月観音、聖観音・梵鐘国指定重美）

大同年間（８０６～１０）「空海が開山と言う。寺伝に寄れば空海が開いた後幾度か衰退したが、太田道灌や４大将軍徳川家綱の帰依を受けた。明治維新により大名の支援も途絶え堂宇の殆どを失ったが、大正以降宇堂を整備した。門外に露座で鎮座した地蔵像（９尺）がある。この像は江戸の六地蔵と呼ばれ、宝永５年（１７０８）江戸深川の地蔵坊の正元が浄財を集め江戸の入口６ヶ所に造立した地蔵の一つ。梵鐘（国指定重美）、洋行帰りの鐘として有名。１８６７（慶應３）パリ博覧会に出品されたが帰途行方不明になった。後ｼﾞｭﾈｰﾌﾞにあることが判明し、昭和５年帰還された。１６５７（明暦３）造られた物で家康・秀忠・家光将軍３人の諡号（ｼｺﾞｳ・ｵｸﾘﾅ・法号）、東照、伝通院・大徳院・大猷院を鋳造し、六観音の像を彫刻して取り付けられている。

11:49～11:59

17・海雲寺（曹洞宗・竜吟山瑞林院・本尊十一面観音坐像春日作区文・千体荒神王、荒神祭・荒神様）

千体荒神は神仏混淆（ｺﾝｺｳ）の神で悪魔降伏の神、竈の神、防火の神。荒神祭は毎年３月、１１月の２７～２８日、一日中護摩が焚かれ、屋台、露天、お釜おこし等が売られる。大絵馬奉納、古い物では１８５６（安政３）絵額・纏（ﾏﾄｲ）図額・千社額・文字額・区額等様々。文字額の中に昭和１０年広沢虎造夫妻奉納した物あり。（中央左）

(神)　(省略)

18・鮫洲八幡神社「鮫洲・御林（オンバヤシ）村・祭神は誉田別尊（ホンダワケノミコト）・気長足姫命（オキナガタラシヒメノミコト）・伊弉諾尊（イザナギノミコト）・伊弉冉尊（イザナミ）・大井の漁師、漁川岸人々守神・鳥居、狛犬、他石造物江戸時代」

鮫洲由来、１２５１（建長３）此の地の沖に漂う大きな鯨の死体を浜に引き寄せ腹を裂くと、中から木像の観音様が出てきたので此を祀った。御林村由来、江戸前期此の地に幕府の雑木林がありそこを開発して村が創られた。浅草海苔主産地が品川で将軍家に献上する海苔は天王洲、鮫洲、永軍洲の海苔に限られ、それが浜川町（立会川両岸）の庄助と長右衛門に渡され両家で漉き浅草の海苔問屋未奥屋庄右衛門を経由江戸城に入った

（駅前食堂にて昼食・刺身定食＋生ビール）

(帰り)　青物横町駅(急)　13:21
京急蒲田　〃　13:29
(乗換)　〃　〃　〃(快特)　13:31 S
上大岡　〃　13:53着

(バス)(栄警察署　14:15頃
14:40頃

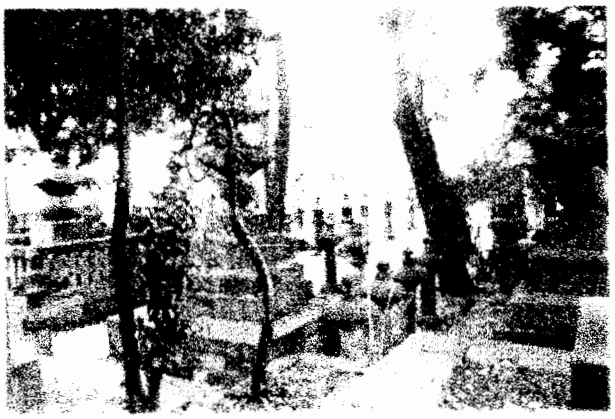
熊本藩主細川家墓所

所在地　品川区北品川三丁目十一番十七号
指定　平成九年三月十四日

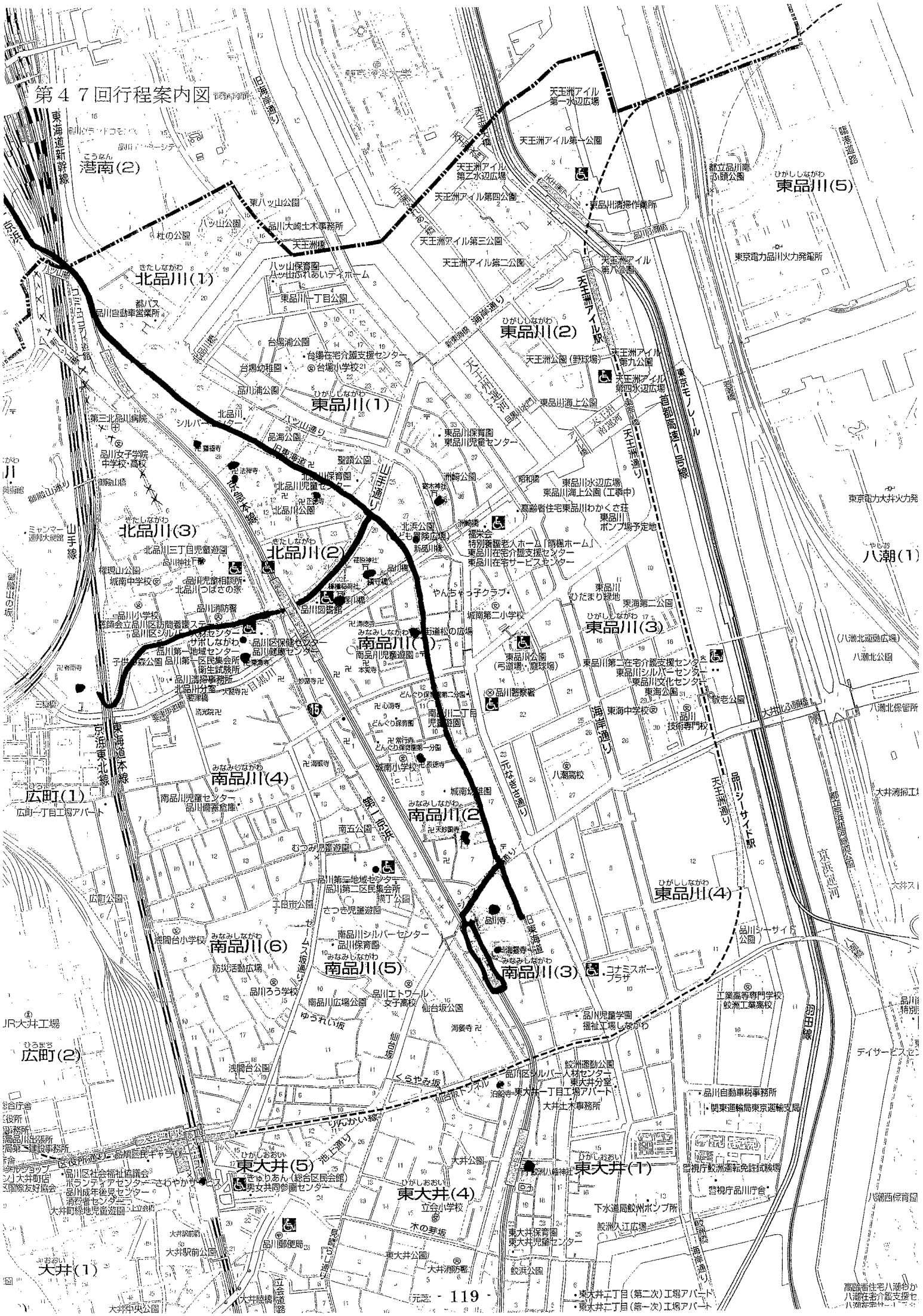
[illegible]細川家の墓所であるこの地域は、東海寺塔頭の一つで[illegible]の一部にあたる。東海寺は、寛永十三年（一六三[illegible]）によって創建された臨済宗大徳寺派の寺院であ[illegible]（一六四三）細川家四代藩主光尚が、父忠利[illegible]を開基として建立した寺院で、江戸にお[illegible]（三代忠利・四代光尚の墓所は熊本市北[illegible]）。[illegible]は明治四年（一八七一）に廃寺になった[illegible]細川家の所有となり現在に至っている（指定面積　二[illegible]メートル）。

[illegible]上下の壇の二箇所からなる。下の壇には六代宣紀、[illegible]十一代斉樹、十二代斉護、十三代韮邦、十四代[illegible]をはじめ、細川家一族の墓がある。上の壇には熊本[illegible]（現在の玉名市）初代細川利重から九代利用までの[illegible]を祭っている。なお、下の壇にある熊本藩主斉樹の墓[illegible]は、明治十一年（一九〇八）少林院（現在の大山墓地付近）から改[illegible]である。上の壇の道路寄りには、明治時代の末に他の寺[illegible]された子女の墓が現存している。

[illegible]を有する大名家墓所が殆ど湮滅してしまった現在、五輪[illegible]した墓の形式を踏襲しながら、五十四万石の大大名である熊[illegible]（三万五千石）の藩主をはじめ細川家一族の墓が一体と[illegible]なって保存されており、近世の大名家墓所の様相を知る上で重要な文[illegible]である。



第４７回行程案内図


港南(2)
北品川(1)
東品川(1)
東品川(2)
東品川(3)
東品川(4)
東品川(5)
北品川(2)
北品川(3)
南品川(1)
南品川(2)
南品川(3)
南品川(4)
南品川(5)
南品川(6)
広町(1)
広町(2)
大井(1)
東大井(1)
東大井(4)
東大井(5)
八潮(1)
天王洲アイル第一水辺広場
天王洲アイル第一公園
天王洲アイル第乙水辺広場
天王洲アイル第四公園
天王洲アイル第三公園
天王洲アイル第二公園
天王洲アイル第八公園
天王洲アイル第九公園
天王洲アイル第四水辺広場
天王洲アイル駅
東京モノレール
首都高速1号線
東海道新幹線
東海道本線
京浜東北線
山手線
京浜運河
羽田線
品川シーサイド駅
東品川清掃作業所
東京電力品川火力発電所
都立品川南ふ頭公園
品川大崎土木事務所
東八ッ山公園
八ッ山公園
杜の公園
天王洲橋
八ッ山保育園
八ッ山ふれあいデイホーム
東品川一丁目公園
都バス品川自動車営業所
台場浦公園
台場在宅介護支援センター
台場幼稚園
台場小学校
品川浦公園
東品川海上公園
東品川保育園
東品川児童センター
品海公園
聖蹟公園
第三北品川病院
品川女子学院中学校・高校
北品川児童センター
北品川保育園
北品川公園
北品川三丁目児童遊園
品川神社下宮
権現山公園
城南中学校
品川児童相談所
北品川つばさの家
品川消防署
品川小学校
聖師会立品川区訪問看護ステーション
品川区シルバー人材センター
品川区保健センター
品川健康センター
品川第一地域センター
子供の森公園
品川第一区民集会所
衛生試験所
品川清掃事務所
北品川分室
品川図書館
南品川児童遊園
南品川二丁目児童遊園
品川警察署
東海中学校
品川技術専門校
八潮高校
城南小学校
城南幼稚園
南品川児童センター
品川師養倉庫
南五公園
むつみ児童遊園
品川第二地域センター
品川第二区民集会所
さつき児童遊園
南品川シルバーセンター
品川保育園
防災活動広場
品川ろう学校
南品川広場公園
品川エトワール女子高校
仙台坂公園
品川寺
海晏寺
コナミスポーツプラザ
品川児童学園
福祉工場しながわ
工業高等専門学校
鮫洲工業高校
鮫洲運動公園
品川区シルバー人材センター東大井分室
品川自動車税事務所
関東運輸局東京運輸支局
大井土木事務所
東大井一丁目工場アパート
鮫洲八幡神社
警視庁鮫洲運転免許試験場
警視庁品川庁舎
下水道局鮫洲ポンプ所
鮫洲入江広場
東大井保育園
東大井児童センター
東大井公園
大井消防署
鮫浜公園
東大井二丁目（第二次）工場アパート
東大井二丁目（第一次）工場アパート
大井ふ頭橋
八潮北保管所
八潮北公園
八潮北運動広場
高齢者住宅八潮ゆか
八潮在宅介護支援セ
東京電力大井火力発
JR大井工場
大井町駅
大井駅前公園
大井陸橋
大井西公園
品川郵便局
立会小学校
きゅりあん（総合区民会館）
男女共同参画センター
品川成年後見センター
消費者センター
大井町緑地児童遊園
区役所通り・品川区民キャラバン
品川区社会福祉協議会
ボランティアセンター
さわやかサービス
大井町店
区国際友好協会
東海道
旧東海道
海岸通り
天王洲通り
山手通り
品川駅
品川ふ頭橋
新東品川橋
品川橋
品川図書館
品川神社
城南第二小学校
東海第二公園
東品川公園（弓道場・庭球場）
東品川第二在宅介護支援センター
東品川シルバーセンター
東品川文化センター
東海公園
敬老公園
東品川水辺広場
東品川海上公園（工事中）
高齢者住宅東品川わかくさ荘
東品川ポンプ場予定地
福栄会特別養護老人ホーム「晴嵐ホーム」
東品川在宅介護支援センター
東品川在宅サービスセンター
ひだまり緑地
やんちゃっ子クラブ
洲崎公園
洲崎橋
昭和橋
北浜公園（ども冒険広場）
新品川橋
品川橋
城南橋
八潮橋
大井ふ頭橋
東海道松の広場
みなみしながわ
ひがししながわ
きたしながわ
ぎたしながわ
やしお
おおい
ひろまち
ひがしおおい
元芝 - 119 -